



「きっと、だいじょうぶ」

～時薬（ときぐすり）と人薬（ひとぐすり）～

校長 中里 純子

「明日から、学校かぁ・・・」

最後まで残った宿題の読書感想文を仕上げ、夏休み最後の夜は、翌日から始まる学校生活への期待と、そして自由気ままに過ごしていた時間が終わってしまう残念な気持ちとで、複雑な溜息を漏らしていた小学校の頃の自分を思い出します。

お子さんの夏休みはいかがだったでしょうか。そして、今週の登校の様子はいかがですか。

「生活を規則正しく戻せるかなあ。」「早起きできるかなあ。」「2学期は勉強が難しくなるんじゃないかなあ。」「友達とは変わらず仲良くできるかなあ。」長期の休み明けは、ワクワク感の一方で、不安を感じる子どももいることでしょう。そして、誰だって緊張し、焦る心理が働きます。焦っても構いません。緊張することは決して悪いことではありません。そんな時は、淡々と時の流れに身を任せることも必要です。

とりあえず淡々と日常を過ごしてみる、なりゆきに任せてみる、時を過ごしているうちに何とかなる、という考えを「時薬（ときぐすり）」というのだそうです。先のことを考えて、あれこれと心配し過ぎるのではなく、「きっと、だいじょうぶ」と自分自身の心を緩める技は、折れない心を育てる強さになるような気がします。

さらに、人の優しさにふれたり、誰かに支えられたりといった周りの人とのかかわりが人に安心をもたらすことを「人薬（ひとぐすり）」ともいうのだそうです。学校生活が再開し、子どもたちが人とかかわる中で、安心して学校生活を軌道に乗せられるよう、全職員で子どもたちを見守って参ります。

今年の夏は、猛烈な暑さが続きましたが、地域では4年ぶりに復活できたイベントや行事がたくさんありました。私も、この夏、地域で行われた「デイキャンプ」や「映写会」「盆踊り」に参加することができ、そこで子どもたちのとびきりの笑顔にふれ、元気をもらいました。また、実施のために念入りに計画され、前向きに取り組まれている地域の方々の姿に感服するとともに、今後の学校経営に向けてのエールをいただいたように感じました。

2学期は、学校でも「宿泊体験学習」や「遠足」、「ドレミファコンサート」など、子どもたちが楽しみにしている行事がたくさんあります。子ども一人ひとりの安全安心を第一に丁寧な指導を行って参ります。引き続き、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

